

◆半紙二行たて書きに臨書して下さい。出品料430円



興福寺断碑 王羲之

- 1、字句 〓南山之壽
- 2、形式 〓半紙タテ使用。右に「南山」、左に「之壽」と臨書し、左余白に落款「〓〓臨」と調和を工夫し書き入れる。
- 3、概観 〓興福寺断碑の臨書も今回が最終回です。興福寺断碑は如何でしたか。集字聖教序と並び称されるだけあって、実り多い課題ではなかったかと思えます。課題を書いただけでは仲々見えないうちも、全体を臨書するうち巧妙な筆遣いが理解できるようになります。私も改めて臨書してみましたが、結体はもろんのこと筆遣いが変化に富み楽しく臨書することができました。臨書部では今回が最後となりますが、引き続き臨書されることをお勧めします。
- 4、各字のポイント

**南** 一画目、二画目を中心より左に寄せ、三画目は短く。四画目転折後稍左に向かう。「羊」の縦画の位置(二画目との違い)確認。

**山** 一画目起筆で筆を突き徐々に引き上げ、二画目の縦画短く内へ向かい転折で筆を突き筆を引上げながら弧を描く。三画目も短く二画目に対してやはり内へ向かう。

**之** 一画目の点左に寄せ、二画目との間を広く取る。二画目筆を突き引き上げ転折後左へ払う。三画目鋒先で入筆するが、筆を押しつけてゆき右下に引き抜く。

**壽** 横画は全て同じ方向へ。△部よく見えづらいが、「口」を書き「寸」へ。

半紙課題(予告)

(十二月二十二日締切)

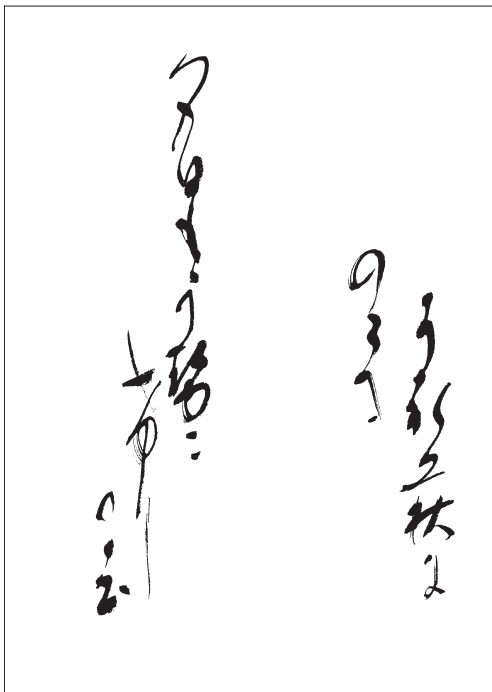


平岡華雪先生書 巖雪夜窓に明かなり(許渾)

訳：山の雪が映えて窓が明るい。

平岡華雪先生書

枯れ秋に残る夕日もうせにけり(山籠)



# 第十五回糸幅実践講座に参加して

矢嶋 信里

初めてのかなの受講が出来る良い機会に、思い切って参加させていただきました。

午前のかなの部では先ず北島先生がご揮毫されたお手本を何枚も掲げて拝見し、散らしや変体がなも種々の立体感あふれる線質に目を奪われました。かなは潤渇に意を用い、自在に使いこなせるように、いくつもの変体がなを習得し、お手本に頼るだけでなく創作できるようにすべきで、そのためには古筆の臨書が欠かせないとお話でした。添削に入り、藏鋒を駆使して太細の妙や紙に喰い込む筆の動きは圧巻で、自作に勢いが加わり活き活きとしてきました。目の前でお書作は、何よりの勉強になりました。



漢字の部では、高橋先生が持参の羊毛筆を上下に動かせ、S字バネを使いながら八面出鋒で自在に書かれる様子に先ず驚きました。潤渇、文字の大小、三角や台形による形の変化等お話し下り、添削をしていただきました。



先生の朱が入りますと見違える程力強い線になり動きが出てきます。古典の臨書をし、本当に良いものを見極める眼を養うように、というお言葉に、これからの取り組みに意欲が湧く二日間となりました。得難い機会をお与え下さいましたことを心からお礼申し上げます。

## 研究部への積極的出品を

漢字部門賞・かな部門賞増設

研究部は、本会の高位段階に当たる「推薦・準推薦・推薦格」者が、より深く、より密度の濃い学書に取り組めるよう、主体的・意欲的に自己開発を推進できる場となっています。出品有資格者は奮って研究部にチャレンジしてください。

対象 推薦・準推薦・推薦格合格者（同人、準同人も歓迎）

課題 「研究部課題」として活字で提示

締切り 毎月二十二日

審査 二名の審査員による採点方式

発表 得点上位から秀逸、佳作を選び、作品の写真を発表し、他は

名簿欄に掲載

年間賞 年間を通じての優秀者には「書筵大賞」並びに「書筵準大賞」を授与し賞揚する。

部門賞 漢字部門賞（漢字課題五回出品者対象）

かな部門賞（かな課題五回出品者対象）

特典 年間賞、部門賞取得者は同人、準同人並びに学生部審査員への道が開かれる。なお、準推薦でこの賞を授与された者は、

推薦への昇格資格者とする。

出品料 九二〇円

### お知らせ

今月の課題は16ページに掲載してあります。

有資格者は是非取り組んで下さい。（推薦格も出品可）

興福寺断碑



伯金。頼川故事。遵揚德音。杏杏藤擲。  
(銘) 伯金。頼川の故事は、德音を遵揚す。杏杏たる藤擲、

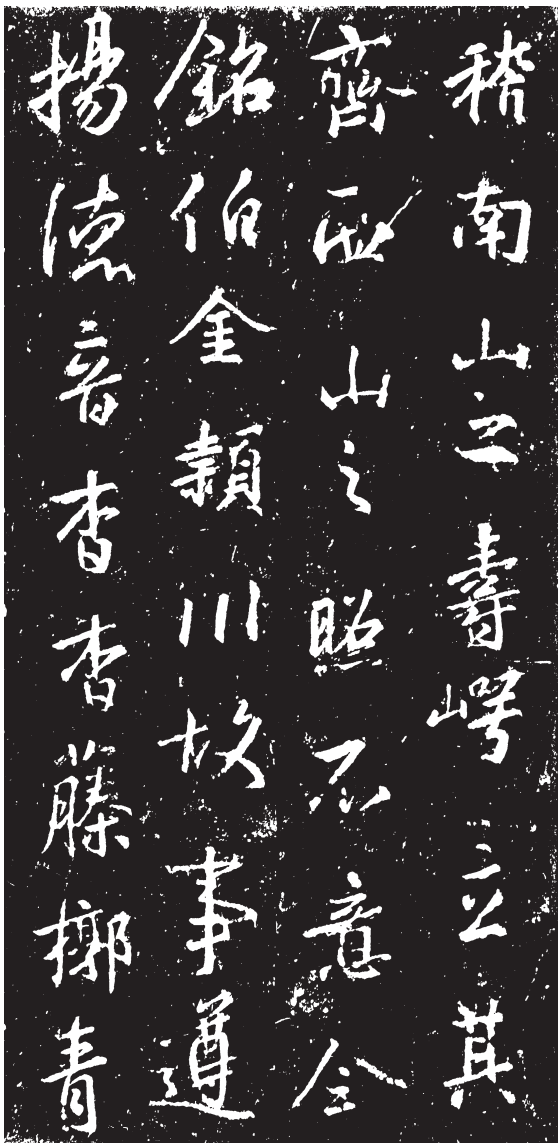
条幅臨書部は半紙臨書部と連動  
しています。半紙に取り組んだ  
方は是非条幅にもチャレンジし  
てください。また条幅だけ出品  
も大歓迎です。

▽字詰め自由。

▽落款は「〇〇臨」と調和を

工夫し書き入れる。

▽出品料五四〇円。

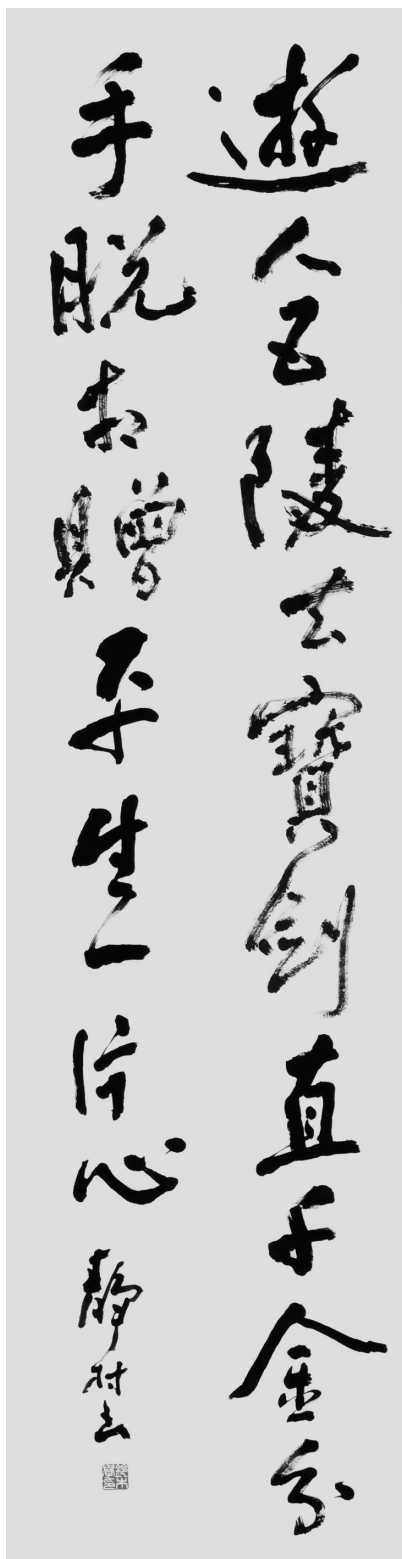


◆注意 ・条幅臨書部の出品はバーコード券右空欄に条臨と記入する。

A

鈴木静村書

遊人五陵去 寶劍直千金 分手脱相贈 平生一片心 (孟浩然)  
遊人、五陵へ去る 寶劍直千金 手を分つに脱して相贈る 平生一片心。



B

高橋香樹主幹書

一行目、遊、陵を大きく。人、五、去をやや小さくするとリズムがとり易い。ただ、寶劍は渴筆が弱く貧相気味。渴筆でも強さが大切。直 墨継ぎ。次の千金分 動きに乏しい。緩急を産み出してほしい。二行目の渴筆部分 脱相贈 細く力感不足。掛けて見ると欠陥が目につく。最後 平 墨継ぎ。心で字幅をとり行の安定度を見極め 落款へ。



五言絶句二十字は二行、三行どちらでも可能だと思いますが、今回は三行とし、一行目二行目同数の十字としました。「遊」は之繞でも三スイでも可。「直」はこの形古典に多い。「手」と「平」の末画の動き同じになってしまった。変化させたい。墨継ぎは「直」と「相」。

訳：遊人は長安の五陵へと去っていく、そこで千金の価値ある宝剣を、別れにのぞんで腰からはずしはなむけとする。これがふだんからの君への心のあらわれなのだ。

予告 (十一月二十二日締切)

小窓半夜青橙雨

幽樹一庭黄葉秋 (真山民)

◆注意

- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条漢を○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品 (バーコード券の条漢を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

学び方

予告 (十二月二十二日締切)

けふはもし君もや訪ふとながむれどまだ跡もなき庭の雪哉 (新古今和歌集)

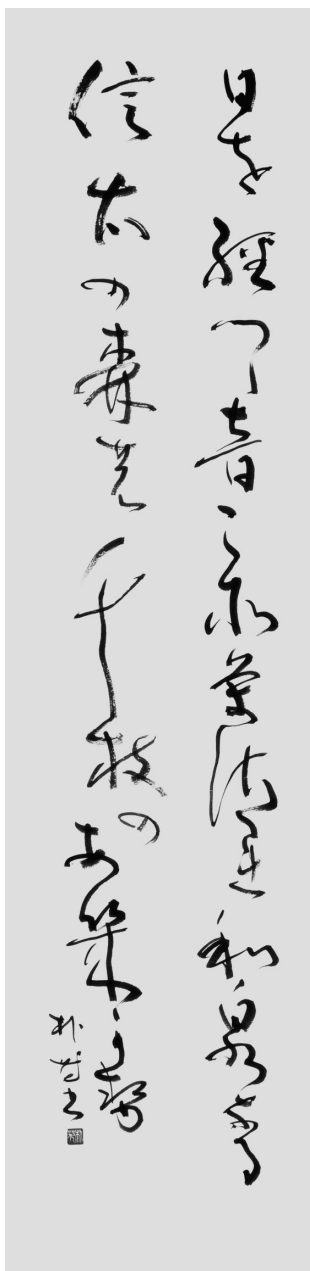
歌意：日が経つにつれて、風の音はまさっていく。和泉の信太の杜の、多くの枝に吹く秋の風よ。

終句を左へ外した一般的三行書きの構成です。この歌の詠まれた場所を、そのままの漢字で表出したかった為、漢字数が多く、何とか違和感なく、堅さが目立たぬことを心がけました。

書き出し、「日」を一字に見立て連綿。「音」所萬佐連」の中心部分では、伸縮、大小の文字の連綿で、流れを作り密度を高めました。

二行目、「信太の森」は放ち書き、「千枝」の連綿線でゆったりと、右行との対比を意識しました。「千」の三画目は、裏返った筆先を立て直し、渴筆でゆっくり引き、線の自在な流れを楽しんで下さい。

終句は、墨を入れて締めます。「千枝の」の、右に流れるラインに、落款を含む結句を自然な形で添わせていきます。

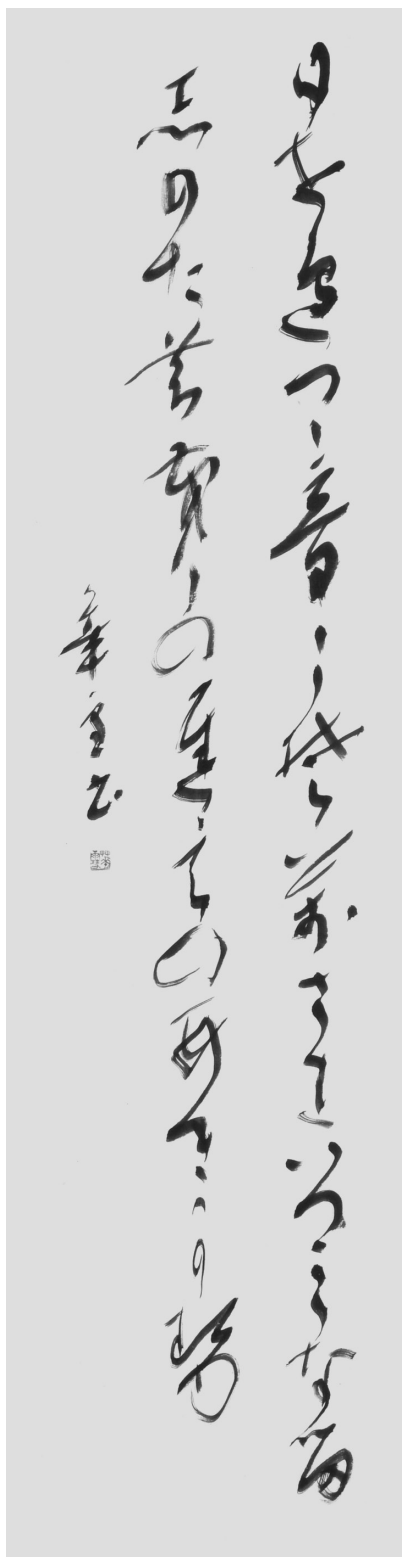


新古今和歌集、巻第四  
秋歌上。平安時代中期の  
官吏歌人、藤原経衡の歌。  
和泉(大阪)の信太の  
杜には、狐伝説で知られ  
る、萬葉稻荷がある。そ  
こには樹齡二千年と云わ  
れる千枝を持つ楠の大木  
がある。

B

向山朴花先生書

日を経つ、音こそ萬佐連和泉なる信太の森農の千枝の幾可勢



A

平岡華雪先生書

日を経つ、おとこそまされ和泉なる信太の森の千枝の秋風(新古今和歌集 藤原経衡)

藤原経衡

- ◆注意 ・条幅部の出品は一人一点(バーコード券の条かを○で囲み(1)と記入する。)
- ・二枚目からの出品(バーコード券の条かを○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)



石田 愁 華 先 生 書

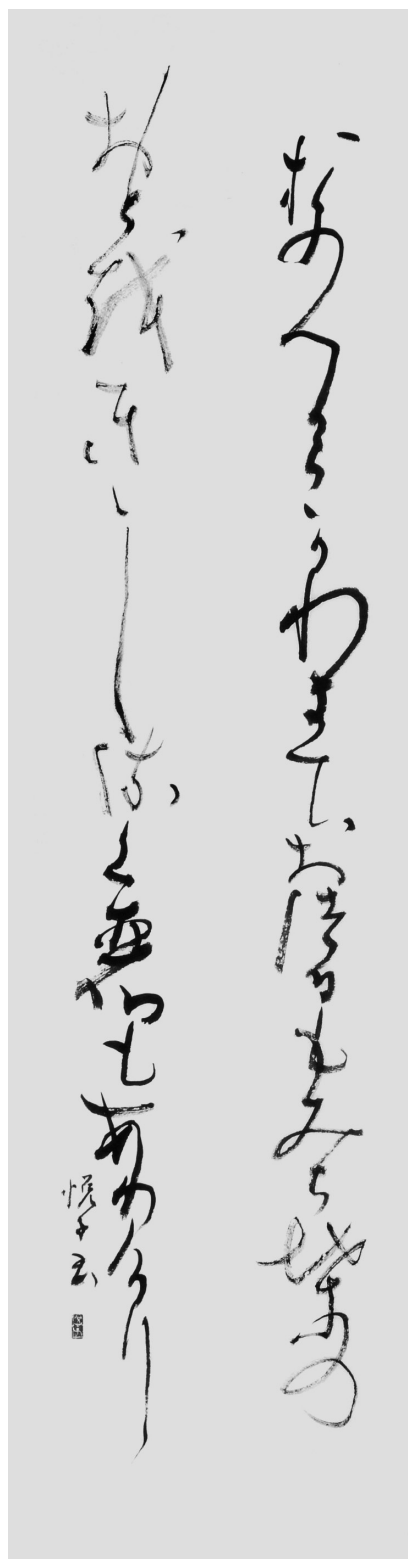
荷葉水香千點露 豆籬虫話一鉤絲 (金志章)  
 荷葉水は香し千点の露、豆籬虫は話す一鉤糸。



訳：蓮の葉におびただしくおいた露は香ばしく水まで香り、豆の花咲く垣根には虫がながながと話しているようである。

長 野 悦 子 先 生 書

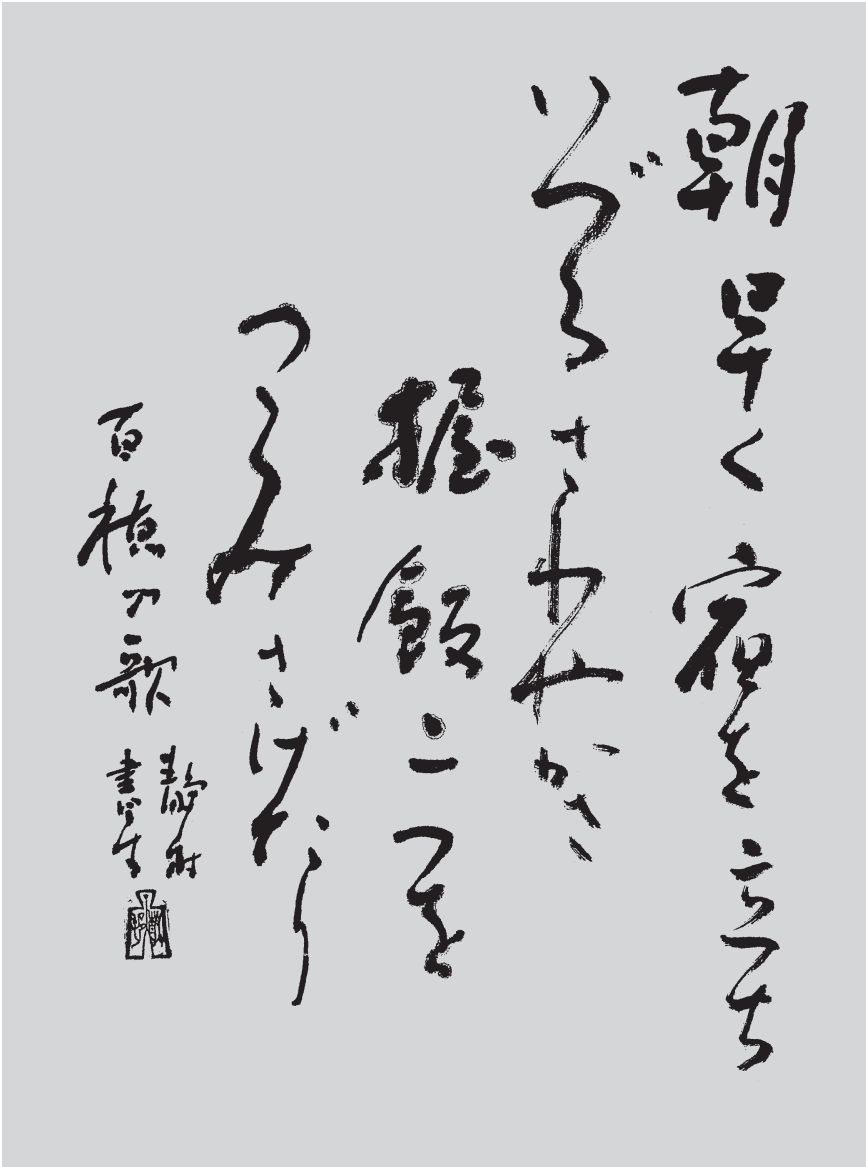
おのづから乾きて落つるもみぢ葉の音を聞きし暮もありけり  
 於のつ可ら可わ支てお徒るもみち葉のおと越きし流久麗もあ利介り (井上文雄)



- ◆注 意
- ・条幅部の出品は一人一点 (バーコード券の条随を○で囲み(1)と記入する。)
  - ・二枚目からの出品 (バーコード券の条随を○で囲み( )に何枚目か数字を記入する。出品料540円)

鈴木静村書

- 多少段差をつけたが、四行の行書きょうが風。
- 三行目「さわやかさ」まで、ひと筆。
- 「握」で墨継ぎ。
- 「さわやかさ、つつみさげたり」単調にならぬよう工夫を。
- 「宿、握、飯」字典で調べ的確に。
- 落款
- 「印」上記の形。「印」は調和よく押印のこと。



朝早く宿を立ちいづるさわやかさ握飯二つつみさげたり  
(平福百穂)

平福百穂  
明治10年、秋田県に生まれる。父の画業を師事。東京美術学校教授。アララギ派の歌人。

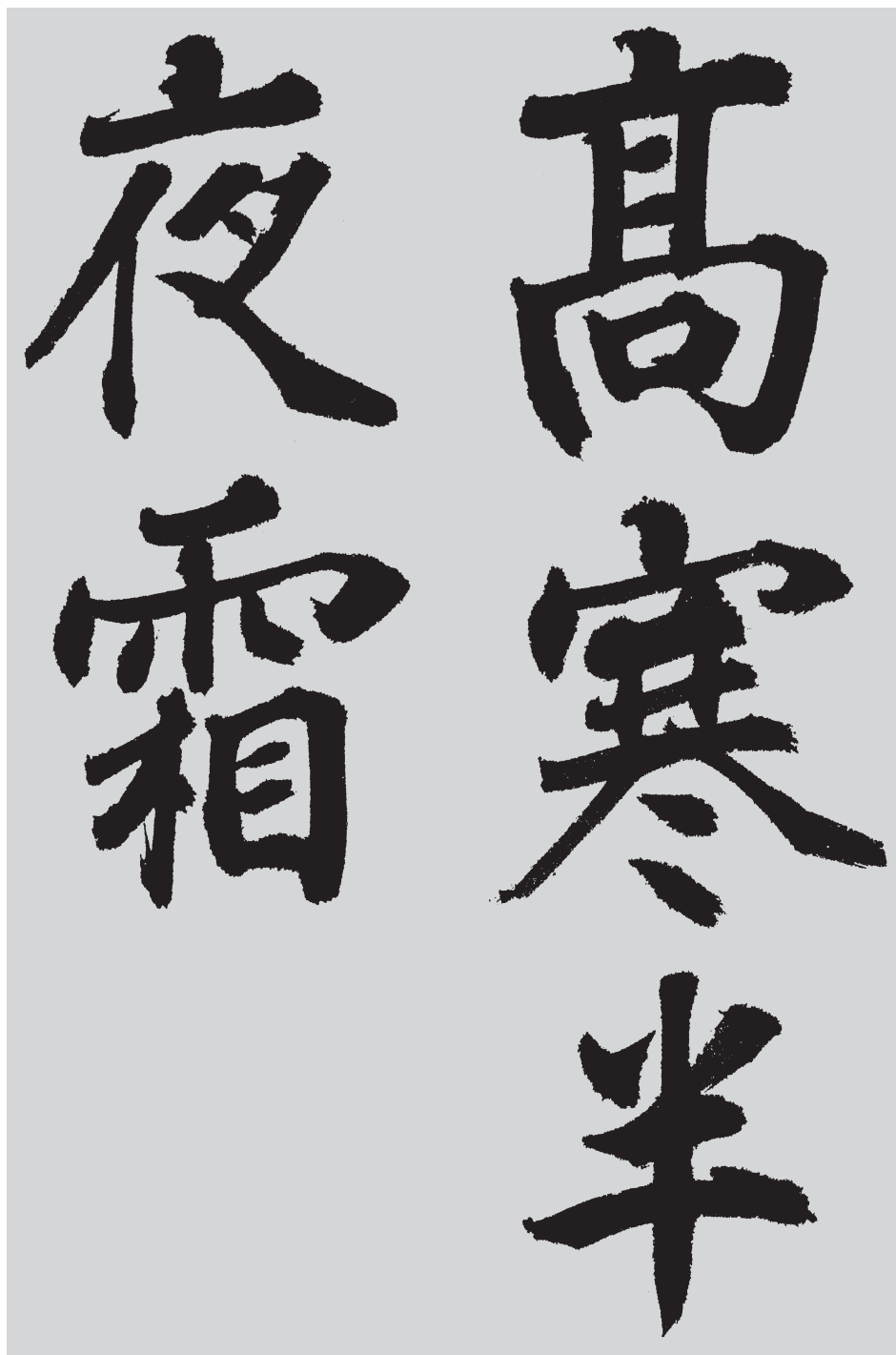
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。出品料540円。

- ①バーコード券右空欄に漢かと記入 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新

平岡華雪先生書

高寒半夜の霜(葉颯)

訳…夜半の霜はひどく寒い。



〈分間の処理と主画に力点〉

各字それぞれ分間の処理が大切です。楷書の場合は、凡そ等分割が普通です。五字で一番苦労したのが、「半」。中心画のタテ画で大体失敗が多い。まっすぐを書くだけでむずかしいのに、末筆がスッキリと書けるかどうか。できたらシメタもの。

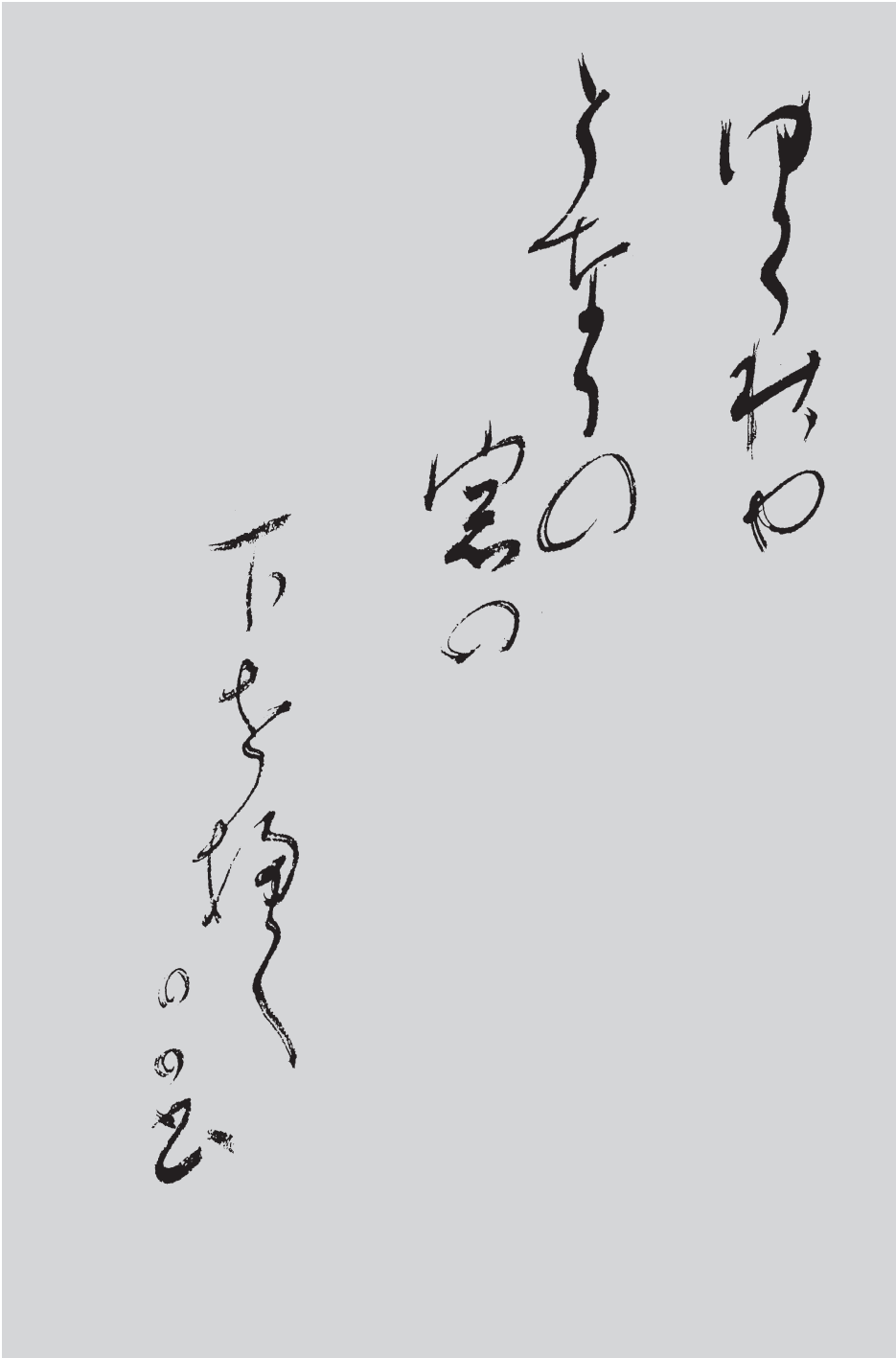
◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①漢字部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。



平岡華雪先生書

ゆく秋やとなりの窓の下を掃く (前田普羅)  
ゆ久秋やとなりの窓の下を掃久



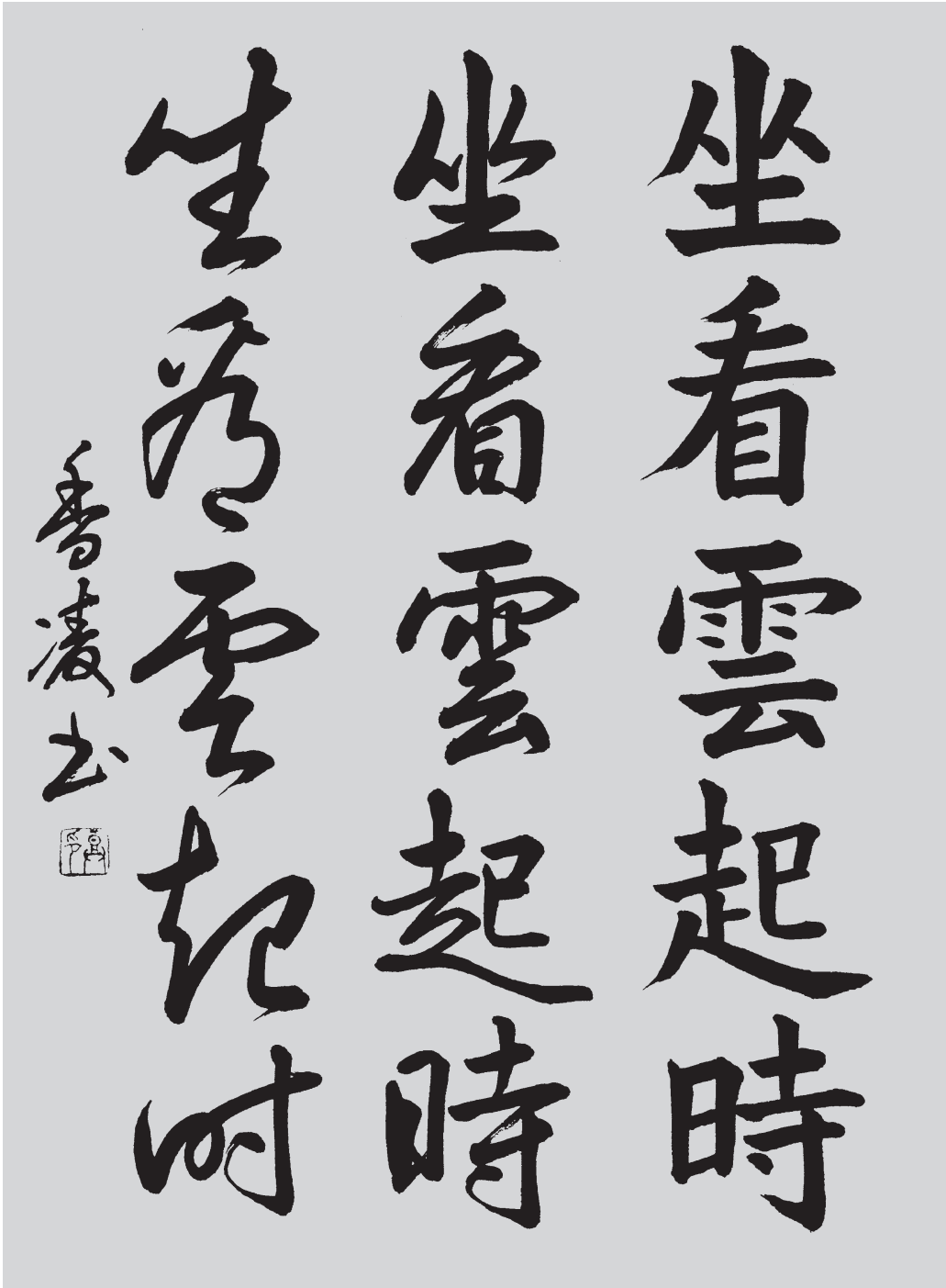
〈散らしの基本図式〉  
手紙でいう前文、本文、末文の構成に当たります。  
書き出しはゆったりと、二群は「主調」となる群、最後は収める筆調で。この句のように、ひと筆で書いた場合は、落款で墨を継ぐ。

◆注意…はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。会員は無料、会員外出品料は430円。

①かな部 ②支部名または都道府県名 ③氏名または雅号 ④新会員は無料。

高橋香凌先生書

坐看雲起時（王維）  
坐して雲の起るの時を看る。



訳：座して看る雲の起る時

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

# 一字書参考

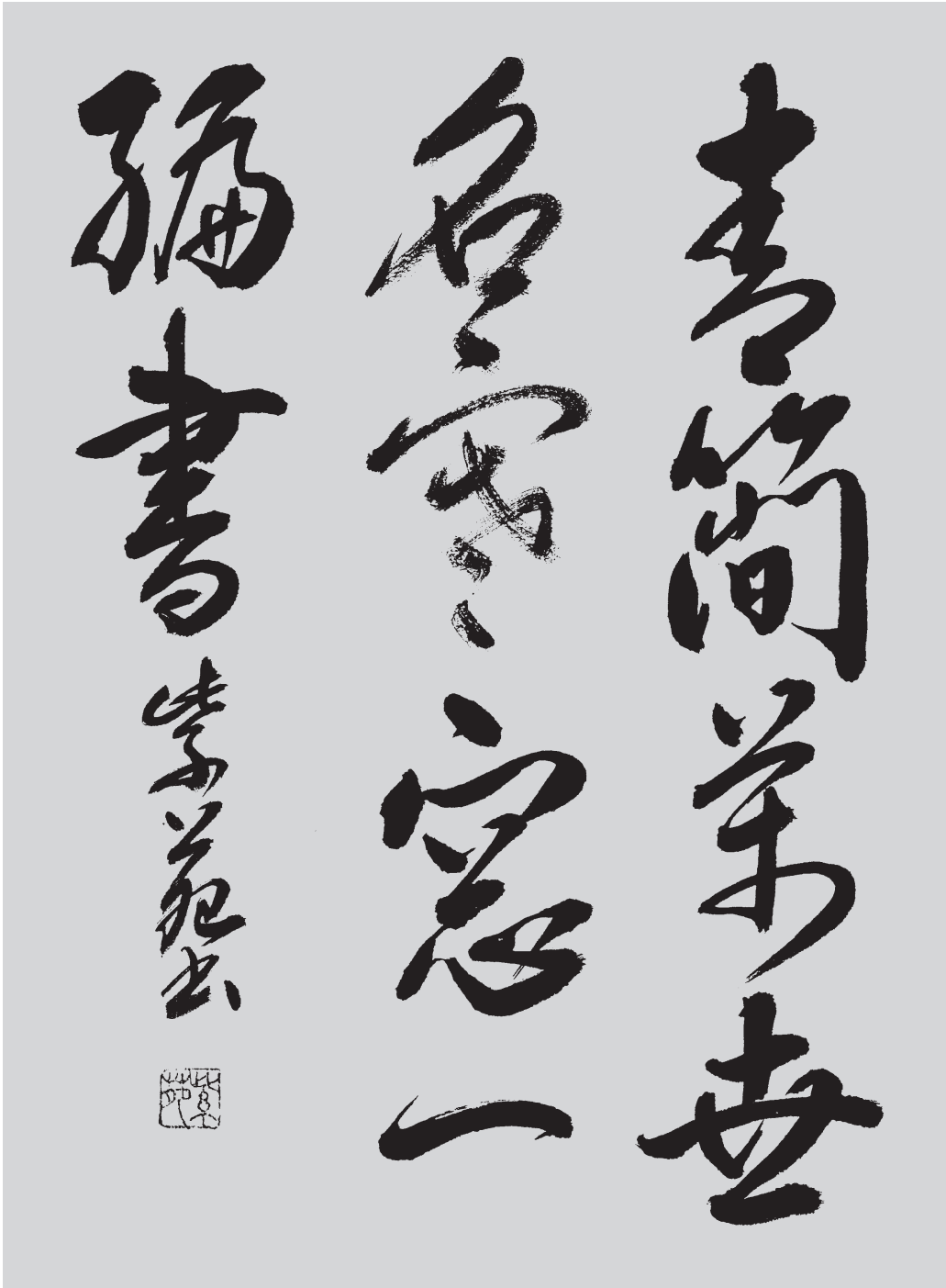
高橋香樹主幹書  
游



◆随意部参考として出品してください。

山田紫苑先生書

青簡萬世名 寒窓一編書（杜範）  
青簡万世の名、寒窓一編の書。



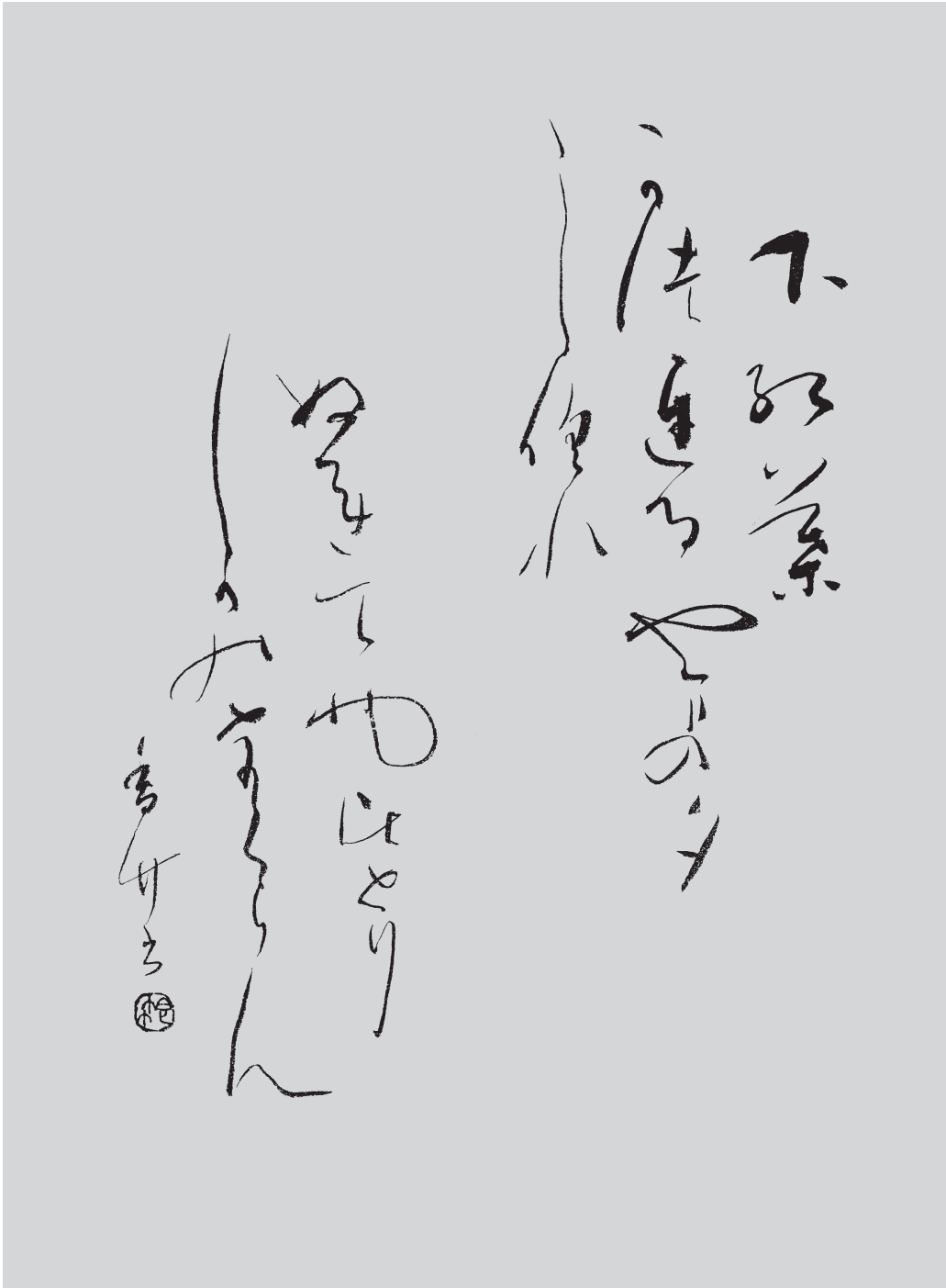
訳：歴史の上には遠き後世にまでもよき名を伝える、さびしい窓の下には一冊の書が友となるのである。

1. 随意部参考として出品してください。
2. 会員外の出品料は430円。

随 意 部 参 考

青柳香竹先生書

下紅葉したもみぢかつちる山の夕時雨ゆふしぐれぬれてやひとり鹿かのなくらん（新古今和歌集）  
下紅葉か可徒遅かるや万まの夕ゆふ之し俱くれぬ連れてや比ひとりし可能か奈久ならん  
藤原家隆



1. 随意部参考として出品してください。 2. 会員外の出品料は430円

湯澤春翠先生書

路川千曄先生書

課題2 (初段階以下)

課題1 (初段階以上)

歌は、単なる言葉の遊戯ではない。  
歌の心、歌の意味は、もう一つの  
新しい現実の出現なのだ。

北の山河が心から消えても、孤独な  
風景のなかに佇むように立っていた  
哀愁感はいつまでも残り、切々とした  
痛みを魂のなかに喚び起した。

正教授 創作部門 (自運作品、自由形式、硬筆用紙使用) で出品。審査料一、〇〇〇円

課題1 (初段階以上)

北の山河が心から消えても、孤独な風景のなかに佇むように立っていた哀愁感はいつまでも残り、切々とした痛みを魂のなかに喚び起した。

「西行花伝」 辻邦生

◆注意

- (1) 自分の段級に合った課題を選択。正教授は創作部門で出品。
- (2) ペンまたはボールペン(黒色)を使用のこと。青インクは不可。
- (3) 段級欄は本人が記入(色は黒)はじめて出品される方は私製の紙(3×4 cm位)に次の4項目を記入して作品左下隅に貼って出品して下さい。①硬筆部②支部名または都道府県名③氏名または雅号④新
- (4) 会員は無料・会員外は四三〇円
- (5) 昇試規定は裏表紙を参照の事。

課題2 (初段階以下)

歌は、単なる言葉の遊戯ではない。歌の心、歌の意味は、もう一つの新しい現実の出現なのだ。

「西行花伝」 辻邦生